豊かな生命あふれる草原を

秋吉台草原ふれあいプロジェクト
平成 28 年度(2016)報告書概要版

西日本最大級のカルスト台地・秋吉台では、毎年の山焼きで広大な草原が維持されており、山焼きの作業や草原の風景そのものが観光資源となっています。また、草を畑や牛の餌に利用する慣習も美東町の集落を中心に残っていて、古くから草原を利用してきた地元の文化を知ることもできます。さらに、全国的にも数が少なくなった草原特有の動植物のすみかとしても重要です。

本プロジェクトでは、秋吉台の草原景観とそこにすむ生きものを守り、草原と人が関わってきた文化を次世代につなぐことを目的に、草刈り作業や学校の草原学習に取り組んでいます。

2016 年度は以下の 3 つのプロジェクトと小学生の草原学習に取り組みました。

お花畑プロジェクト

秋吉台北東部の地域では、梅雨明け頃に草原の草を刈り、その草をサトイモの根元に敷き詰め、芋の日焼けや乾燥を防いでいます。その草刈り跡では多くの花が咲くことがわかっています。ただ、草刈りも頻繁になるとネザサを中心とした植生がチガヤ等の優占するものに変化していくため、花の数が少なくなる場合もあります。

お花畑プロジェクトでは地元の伝統に習って 7 月に草を刈り、秋に咲く花を増やすようにしていますが、同時にどれくらいの頻度で草刈りを行えば生き物の多様性を守ることができるかを検証しています。

7 月の草刈り作業の様子

10 月の観察会の様子

今年は草刈り場所では開花した花は多くありませんでした。3 年に 1 度の頻度でも、草刈りの影響が蓄積しており、植生が変わり始めていることがわかりました。今後はさらに検証をすすめ、この地域での最適な管理方法を考えていきたいと思います。

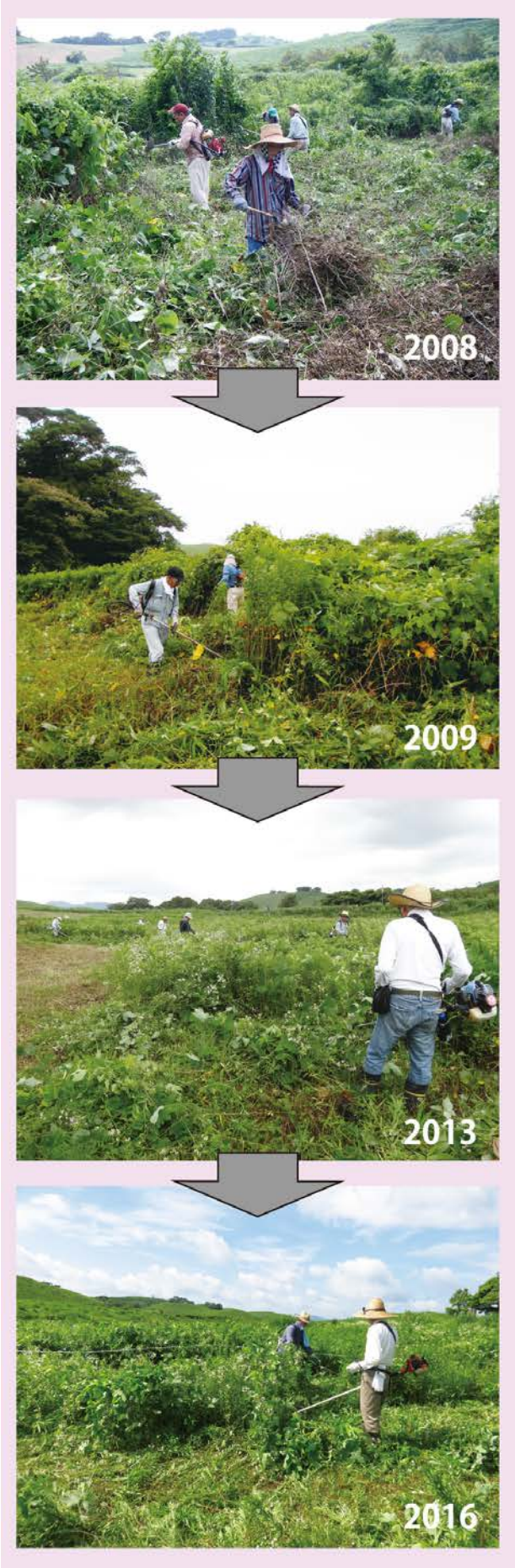
草原の復元プロジェクト

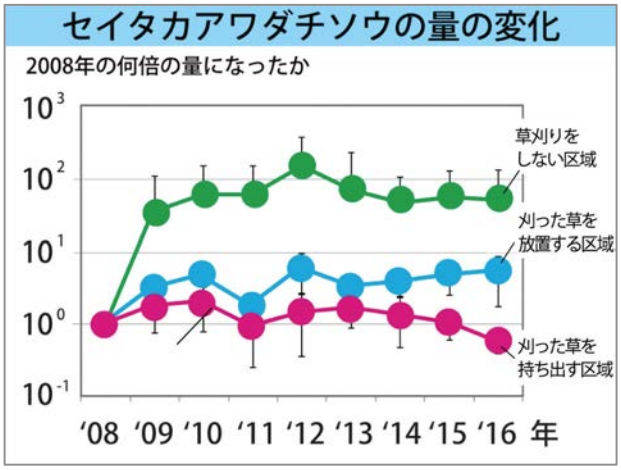
多くの観光客が訪れる長者が森のすぐ東側には、セイタカアワダチソウが繁茂する区域があります。ここは 1991 年時点ではクリ園であり、放棄された後は丈の高い草と樹木が生い茂る場所で

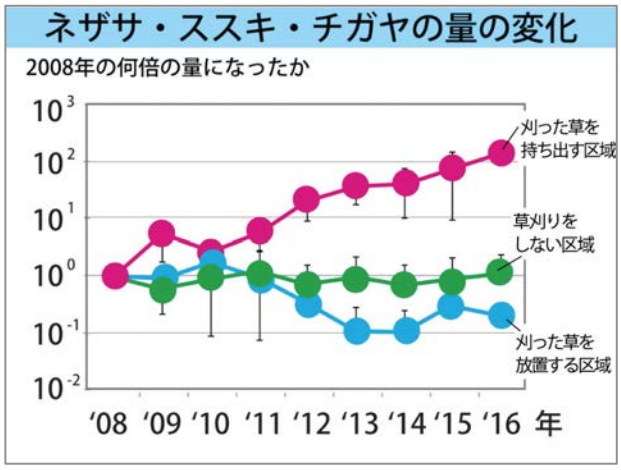
した。2008 年に刈り取り作業を始めると、樹木は衰退しましたが、代わりにセイタカアワダチソウが繁茂しはじめました。

2010 年からは年２回の草刈り作業を行っています。9 年目の 2017 年は草丈がかなり低くなり作業も楽になってきました。

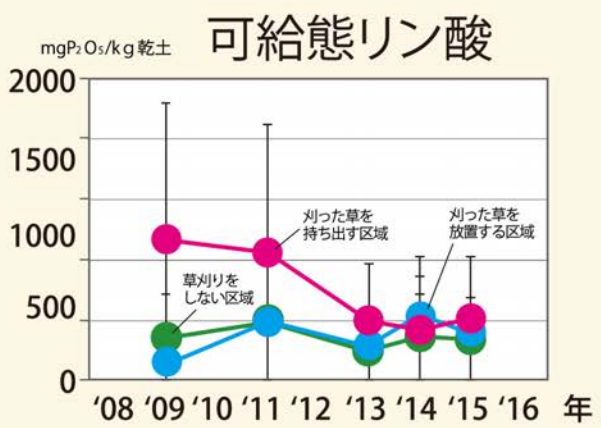
さらに、刈った草を持ち出した場所ではセイタカアワダチソウは増えず、逆に、ネザサ、ススキといった草原の植物が少しずつ増える傾向は継続しています。昨年度初めて出現したサワヒヨドリの花は、今年は株数が増えました。





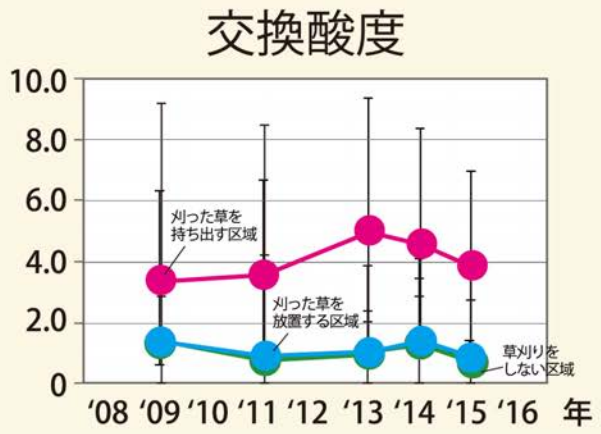


また、草原生植物の再生には土壌環境の再生が重要です。



復元作業地の土壌には、昔クリ園だった頃のものと思われる栄養分がたくさん蓄積していました。セイタカアワダチソウは富栄養な土を好むので、栄養分を減らすことは重要です。

刈った草を持ち出す区域はもともと他の区域より土の中の栄養分が豊富でしたが、草刈りを続けているとリンがだんだん減ってきました。



交換酸度は交換性アルミニウムを主体とする土壌中の酸性物質の量を示します。

セイタカアワダチソウ等は交換性アルミニウムが根に与えるダメージに弱いとされています。刈った草を持ち出す区域では交換酸度が高くなり、外来植物の生えにくい環境になりつつあることがわかりました。

刈った草を放置する区域は草刈りをしない区域と同程度の値しかありませんでした。

山口大学農学部・藤間研究室による土壌分析の結果、外来植物が繁茂する原因となっている土壌中の栄養分が、草刈り作業で草を持ち出すために減ってきていました。同時に土壌の酸性化も進み、外来植物にとっては苦手な環境になりつつあることがわかりました。草刈り作業の継続で在来の草原生植物にとって好ましい土壌環境に変わっていくことが示唆されました。

燃え残り整備（山焼き応援プロジェクト）

本年度の山焼きはよく燃えましたが、長者ヶ森周辺には例年通り燃え残りが生じていました。燃え残った場所は有機物がたまってくるため、草丈がだんだん高くなります。高い草に覆われると地面近くは暗くなり、生きものがどんどん少なくなってきます。また、草丈が高いとさらに燃えにくくなる悪循環が生じます。

そこで、長者ヶ森の東側と、さらに南側の道路沿いで燃え残り整備を行いました。いずれも草丈が高かったり、低木が混じったりと少し骨の折れる作業になりました。来年度はぜひ火入れでの燃え残り整備を行いたいものです。

小学生の草原学習

地元の子どもたちにももっと秋吉台のことを知ってもらおうと、2012 年度から秋吉小学校４年生の草原学習を受け入れています。

自然観察の時間では、秋吉台を見渡せる冠山に登り、露岩がたくさん見える地獄台やドリーネの並ぶ馬ころびなどの景色を楽しみました。7 月には草刈り体験にも取り組み、その体験は９月のガイド活動にも活かされていました。最後の学習では、山焼き後に散策を行い、普段は草に隠れている鉱山跡やドリーネの底を観察しました。

これからも秋吉台の魅力を子供達と共有し、ふるさとの自然を大事に思う気持ちを養っていきたいと思います。

その他トピックス

◆ 神戸市生物多様性シンポジウムに参加しました

10 月 1 日（土）に、神戸市の相楽園にて、生物多様性シンポジウム「外来種と向き合う人々–外来種対策の活動事例と課題–」が開催されました。当プロジェクトもパネルディスカッションに副代表の荒木が参加し、外来種対策の活動事例として秋吉台での「草原の復元作業」について報告し、パネルディスカッションを行いました。

◆ 第 11 回全国草原サミット・シンポジウムに参加しました

10 月 15 日（土）から 17 日（月）にかけて、兵庫県美方郡新温泉町で開催された「第 11 回全国草原サミット・シンポジウム in 上山高原」に参加しました。草原が経済・社会・教育・文化という多面的な価値を持つことを再認識し、持続的に利用しながら保全するよう努めることが宣言されました。また、情報共有を目的として「全国草原自治体ネットワーク」を設立し、保全対策に向けて連携していくことが決まりました。

秋吉台草原ふれあいプロジェクト
http://akiyoshidai.org/

秋吉台草原ふれあいプロジェクト
事務局　荒木 陽子
〒753-0816
山口県山口市吉敷佐畑 5-18-1
E-mail: staff@akiyoshidai.org